

## 桑樹分類の基礎

上田蠶絲専門學校講師農學士 田中長三郎

著者は曩に桑屬 (MORUS) に關する主要文献を集説せる桑屬考 (上田蠶絲専門學校校友會雜誌第二號、大正三年十二月發行一〇乃至一四頁) に於て少しく桑樹の分類に關する研究史を擧述したりしが、本文は更に夫れを詳論し以て今後桑樹分類事業の基礎に具へんとす。

桑樹の始めて植物學上其の所屬を定められたるはトウールヌフオーヌ (LOURNEORT) の創定に始まり、彼れの『植學教書』(Institutione rei Herbariae. Paris, ed. I, 1694.) 第五八九頁に之を載す。其他 マンビキ (MALPIGHI) の『植物解剖書』(Anatome Plantarum. London, 1675-79.) バンロキス (BAUHNUS) の『植物界前書』(Pinax theatri botanici. Basi, 1623.) ドンキナム (DODONAEUS) の『草木誌』(Pemptades seu stripium historia. Antu, 1616.) 等皆是れを載す、然れども其の記述を全ふしたるは彼の生物分科學の開祖 カール・フォン・リンネ (KARL VON LINNE) にして其の『自然分科編』(Systema Naturae. Stockholm, ed. I 1735.) 『植物分屬編』(Genera plantarum. Lugd.-bui., ed. I. 1737.) 『植物分種編』(Species plantarum. Holm. ed. I. 1753; ed. II. 1763.) 等皆之を掲げたるを今リンネの著書全部を

涉獵して其の記載せる桑屬 (MORUS) の植物を集むれば左の如し。

**Morus alba LINN. ヌロムゲハ**

『植物分種編』第一版、九八六頁、第二版、一三九八頁、第一號。

『クリフガルチア栽培植物誌』(Hortus Chriftianus. Amst., 1737.) 四四一頁第一號。

『ウブサラ栽培植物誌』(Hortus Upsaliensis. Stockh. 1748.) 二八四頁、第二號。

葉傾心形にして平滑、果實白色、支那原産。木本。

**Morus nigra LINN. クロムゲハ**

『植物分種編』第一版、九八六頁、第二版、一三九八頁、第二號。

『クリフガルチア栽培植物誌』四四一頁、第二號。

『ウブサラ栽培植物誌』二八三頁、第一號。

葉心状にして粗糙、長剛毛あり、果實黑色。産地伊太利海濱。木本。

**Morus papyrifera LINN.**

『植物分種編』第一版、九八六頁、第二版、一三九九頁、第三號。

『タムンホヤ (KAEMPFER) 著』『東邦異聞録』(Amoenitates exoticarum Lamour. 1712) 四七一頁(圖)。四七二頁。

葉掌状、果實は長剛毛あり、内皮は紙を製す。栽植。日本原産。木本。

**Morus rubra LINN. アカミゲハ**

『植物分種編』第一版、九八六頁、第二版、一三九九頁、第四號。

『グロンゾイツム (GRONOVIVUS) 著』『フーナーニア植物誌』(Flora virginica. Lugd.-bat., 1743.) 第二卷、一四六頁。

葉は心狀にして裏面は絨毛あり、葉莖花は圓擡形、二年生。ヅアーヂニア原産。木本。

**Morus indica LINN. インドグハ**

『植物分種編』第一版、九八六頁・第二版、一三九九頁、第五號。

『セイロン植物誌』(Flora zeylanica Holm 1747) 三三三七號。

『ラムフネツツン(RUMPHIUS)著』『フムボイナ 腊葉誌』(Herbarium ambolnense fmsl. 1740.) 第七卷、八頁、圖五。

葉は卵狀長橢圓形、兩縁は一樣に、且不平等に鋸齒あり。印度原産。木本。

**Morus tatarica LINN. タタリアグハ**

『植物分種編』第一版、九八六頁・第二版、一三九九頁、第六號。

葉は卵狀長橢圓形にして兩縁に一樣、且平等に鋸齒あり。アツソフ原産。木本。

**Morus tinctoria LINN.**

『植物分種編』第一版、九八六頁・第二版、一三九九頁、第七號。

ヤックイン(JACQUIN)著『カリハ島及亞米利加産植物目錄』(Enumeratio plantarum quas in ins. Caribaeis et America detexit. *Trigd.-part.* 1762.) 二四七頁、一八〇圖。

葉は長橢圓形にして基脚は其の方向に伸長せり。葉腋に棘あり。ヤマイカ原産。木本。

以上七種の内今日桑屬より分離せられ、別屬と認められ居るもの次の二種あり。

**Morus papyrifera LINN. = Broussonetiapapyrifera VENT.**

**Morus tinctoria LINN. = Chlorophora tinctoria GAUDICH.**

前種は邦産カデノキにしてカウゾ、ヒメカウゾともにも有要ある製紙原料植物あり、或は桑の代用植物として知らる、後種は熱帶亞米利加産の所謂『ブラジル黄材』(BrazilienGelholz)にして其の木質硫黄色に着色せるが故に其の名あるなり。

デュアメル(DUHAMEL)はリンネに少しく後れて現はれたる佛蘭西の植物學者にして其の農林學の著書又大に世に用ゐらる、而して其の發表したる桑の新種類に次の如きあり。

*Morus virginiana* DUHAM. 『果樹論』(Fruite des Arbrres-Fruitiers vols. ed. I Paris, 1763.)

本種は既にリンネ以前に於てプランクネット(PLUCKNET)の『植物學界全書』(Opera omnia botanica. London, 1691-1730.) 二五三頁、圖版二四六、第四圖に載せたるを始めとする云ふ、今日本種はアカミヅンの一種ありと考へらる〔デッセル(DIPP)著『濶葉樹學提要』(Handbuch der Laubbolzkunde. 3Bde. Berlin, 1889—93. 參照)〕

少しく後れて和蘭の學者ノロンン(NORONHA)は『和蘭協會報告』(Verhand. Batav. Genootsch.) 第五卷(一七九〇年發行)第一版(第二十款)に桑屬の一種

*Morus laciniata* NORONHA.

を發表したれども本種は今日インドグハの一種ありと考へらる。

次に英國の園藝學者ミルラー(MILLER)は其の大著『園藝家辭書』(Gardner's Dictionary. London, ed.

I. 1731.) に次の二新桑種を擧げたれども、孰れも今日に於てはクロミグハの一種にして新種に數ふるを得ざるを知れり。

*Morus laciniata* MILL. non NORONHA. ワシバクハ 同書、第八版、卷五、一五七頁、第二號。

葉は多少狭く細裂し、裂片は更に分裂す。

*Morus siciliana* MILL. 同右。(正誤文中)

ラマンン (LAMARCK) は佛國の有名なる生物學者として人の知る所にして其の大著『植物學合法百科辭典』(Encyclopédie méthodique pe la Botanique. Paris, 1783-1817.) はポアン(POIRET)の執筆する所なれども亦大に世に顯はる。ふの書新に桑の種類を發表する所甚だ多く、以て吾人が最も注目にする文献の一となす事を得べし、左に之を擧ぐれば

*Morus italica* POIR. イタリアグハ 第四卷、三七七頁。

樹勢旺盛にして木材は黄色を呈す、葉は大きく、膜質にして同じく着色あり、葉柄長し、伊太利原産。

*Morus canadensis* POIR. カナダグハ 同 三八〇頁。

(本種は其の後アカミグハの一品に他あらずと考へらる)

*Morus constantinopolitana* HORT. コンスタンチノーブルグハ 同 三八一頁。

樹は小形にして下方に枝を密生し、且枝は曲折せり、葉は廣心形にして稍厚し。小木本なり。東洋、小亞細亞・クリート・嶋より歐洲に移入す。

*Morus latifolia* POIR. ヒロハグハ 同 三八一頁。

葉は心狀にして分裂せず、卵形にして鋸齒あり、粗糙にして網狀の小脈あり。(葉廣き桑)。ホルボニア島原産木本。

本種は又ウィルデノツ(WILDENOW)の改訂増補せしリンネの『植物分種編』(第四版)(WILDENOW, Species Plantarum. Berlin, 1798-1830.)第四卷(一八〇五年出版)にも之を採用記説せり。

ウィルデノツは又其の『ベルリン植物園植物目録』(Enumeratio plantarum Horti botanici Berolinensis. Berlin, 1809.)に於て次の一種を擧げ居れり。

*Morus scabra* WILD. サラツキグハ 同書、九六七頁。

本種は爾來久しく獨立種として考へられたれども、其後ラウドン(LOUDON)は之れをアカミダツの一種に收め、ビュロー(BUREAU)は更に其の一種たるキンテン(Morus pura var. incisa)と同種となれり。又ベルリン博物館の腊葉にはクロミダツと同一種にしてこの名を附せるものありを云ふ。

又伊太利の植物學者バルビヌ(BALBIS)は其の著『チューリン植物園草木目録』(Catalogus stripium horti botanicifaurinensis.) 一八一三年號、一二頁に、

*Morus pumila* BAIB. チヤホグハ

と稱する高さ僅に三「メートル」に満たざる小形木本（葉は或は全縁なれども時に二裂。三裂す）の桑種を發表せり。本種は後ラウドンに依りてコンスタンチノーブルグハの一變種なりと考定せられたり。後述）又同氏の

*Morus bullata* BAIB.

はラウドンに依ればヨロバグハ (*Morus latifolia*) の一種なりと云ふ。

クント(KUNTH)の執筆せしフムボルト及びボンブラン著『アメリカ内地紀行』中の『周歴中新に發見せられたる新屬及び新種の植物』(Nova genera et species plantarum quas imperperinatione orbis novi colligerunt. 7 vols. 1815-25; IMHUMBOLDT et BONPLAND, Voyage dans l'intérieur de l'Amerique dans le années 1799 à 1804. Paris, 1808.) 中又左記の新桑種を擧ぐ、本種は今日に至るも獨立の一種として其の地位を保續せり。

*Morus celtifolia* H.B. etK. モノキバグハ 同書第二卷二三頁、第一號。

小枝柔軟にして葉は卵形、卵狀楕圓形、或は卵狀披針形を爲し、鈍脚或は心形を呈す。葉縁の鋸齒鋭く、尖端尖り、時に延長せり、表面は幼時毛なるを常とし粗にして裏面は脈上に微毛あり、中央亞米利加及熱帶亞米利加原産。

新同書第二卷、三三頁、第二號。及び『F氏及びボ氏が熱帶地方に於て新に採集したる植物の名彙』(Synopsis plantarum quas in itinere adplagam aequinoctialem orbis novi colleg-erunt Al. de Humb. et A. Bonpl. Paris, 1807-1804)第一卷、三七〇頁、第二號に載せたる。

*Morus corylifolia* KUNZII.

並にメンサト(BENTHAM)が『ハルトウエヒ氏採集植物録』(Plantae Hartwegianae)七一頁、五一四號に載せたる

*Morus mexicana* BENTH.

は其に本種と同一なりと認めらる。

又フイリツピンの植物を多く研究せるペロツテ(PERROTTET)は左記の如く諸所に於て桑の新種を發表したれども特に獨立種と認むべきものなし。

*Morus multicaulis* PERR. エタウチケハ

『巴里林業學會年報』(Annales de la Société Linnéenne de Paris)第二卷、一八二四年、一二九頁。

『フロモント年報』(Annal. Fromont)第三卷、一八二一年、三三八頁及び三四二頁、第三圖版。

『植物學誌林』(Archives de Botanique)第一卷、一八三三年、二二八頁。

枝幹は灰黑色にして明色の皮目あり、枝幹多し。葉は薄き膜質にして多少凸凹せり、其の基脚僅に心形をなす。



本種はラウドンに依ればシロミグハの一變種とせられ居れどもビュローは之れをポアールのヒロハグハと同種となせり、又ベロツラが『植物學誌林』第一卷、二三四頁、第七圖に掲げたる。

*Morus intermedia* PERR.

も亦然りと云ふ。

スプレングル (SPRENGEL) も亦名たる、獨の植物學者なるが其の改訂増補せしリンネの『植物分科編』(SPRENGEL, Systema vegetabilium, ed. XVI, Göttingen, 1825-1828.) 四九二頁、第一二號に記説せし次の新種は今日猶獨立種たる地位を保てり。

*Morus insularis* SPRENG. シマノケハ

葉は長楕圓形にして鈍頭、脚部は漸尖す、三葉脈ありて甚だ平滑なり。マルシオン、ド、メンドーザ島(太平洋中)原産。

次にデリール (DEILLE) は一八二六年發行の『佛國農學會報』(Bullet. de la Société d' Agric. at Hérault.) 第二三卷(一八二六年)三二八頁に次の桑種を載せたり。

*Morus alba* var. *venosa* DEILLE スチバゲハ

枝條細くして木本狀灌木或は木本をなす、葉は變形多く、尖端時に丸し。葉脈よく隆起せり。奇品として歐洲各地に栽培せらる。

デスフオンテイヌ (DESFONTAINES) も亦佛の著名なる植物家なるが其の『巴里植物園植物目録』(Catalogus plantarum horti regni Parisiensis.) 第三版(一八二九年)三四七頁に

*Morus tatarica* DESF.

と記せる植物あり、是れ其の後の研究によればリンネのタ、リアゲハと異なりポアールのヒロハグハに同一なりとせられ居れり。

シーボルト (SEIBOLDT) は蘭醫として滞日中本邦の生物を研究せし吾人の文明開發に最も關係ある生物學者なるが、一八三〇年發行の『和蘭協會報告』第十二卷に載せたる『日本有用植物目録』(Synopsis plantarum oeconomicarum universitatis Japonici) 一七頁に桑の一新種として、

*Morus japonica* SaFB. ニツホンクハ

を發表たり、然れども今日其の我國の何種に相當するや明かあらざるを憾とす。

ボナフヌ (BONAFOUS) は多數の著書ある伊の桑樹研究家なるが其の著『桑樹栽培要録』(Mémoire de culture des Muriers. 1831.) 七頁及び『ノイッリン本の桑に就て』(SalGelsø Philippine.) 七頁に

*Morus cucullata* BONAF.

を載せたれども本種は全くヒロハグハに外ならざるありワリツヒ (WALLICH) の一八三二年に出版せし『植物目録』には又次の種を擧ぐ。

*Morus cuspidata* WALL. 四六四六號。

リンネのインディグハの一種なり。

*Morus serrata* WALL. 四六四八號。B。

シロミヅハの一種なり。

*Morus laevigata* WALL. ケナシグワ 四六四九號。

新種

葉は卵形、凸頭。細き鋸齒狀齒牙あり、平滑又は稍微毛あり、雌花梗は甚だ長し、叢果は長圓壻形、黄白色を呈す。印度原産。

*Morus viridis* WALL. 四六五〇號。

前種に似て葉たゞ鈍頭を有するの差あり。

ロックスボロー (ROXBURGH) は東印度協會の醫師及びカルカッタ植物園長として印度の植物を研究せる最初の植物學者なるが其の著『印度植物誌』(Flora indica. 3 vols. Calcutta, 1832.) には左の桑新種を擧げ居れり。

*Morus atropurpurea* ROXB. マムラサキグハ 同書、第三卷、五九五一六頁。

葉は心形、稀に分裂し、平滑あり。葉裏花は圓壻形、果實も亦圓壻形にして深紫色を呈す。印度

原産。

其後の研究に依れば彼のリンチを祖述して『交趾支那植物誌』(Flora Cochinchinensis. 2 vols. *London*, 1790: et. II, cur. Willdenow, 1793)を著せるロウレイロ(LOUREIRO)が同書第二卷、五五五頁(第二版は第二卷、六七九頁)に誌したる

*Morus rubra* LOUR.

は實に本種を同一なりと考定せられたり。ビュローに據る(本種は明にシロミヅハの一變種あり。

*Morus serrata* ROXB. ノ「キリバゲハ」 同、五九六—八頁

木本にして葉は平等心形をなし、三脈あり。粗大且鋭き鋸齒あり、凸頭なり、粗糙なれども無毛。雌の葇荑花は圓壺形をなす。(獨立種なり。)

*Morus mauritana* ROXB. 同、五九九頁。

本種は *Ampelis madagascariensis* BOJ. に同し。

*Morus paniculata* ROXB. 同、五九九—六〇〇頁。

本種は *Pipturus* の一種ありと云ふ。

ランイネムシ(RAFINESQUE)はロックスボローと殆ど同期の伊國生物學者なるが北米に移住して其の地の植物を研究し、著書も亦多し、次に掲げたる多數の桑種は皆その人の命名或は使用せるものなれ

ども惜むらくは其記文の今日傳はれるもの甚だ僅少ななるを。

*Morus gretica* RAF. 『アメリカ桑樹書』(Manual of American Mulb.) 一三三頁。

*Morus petiolaris* RAF. 同、二四頁。

*Morus atrata* BAF. 同、二七頁。

右三種共クロミツンに同じ。

*Morus pyramidalis* HORT. non SER. マンツングハ 同、二七頁。

新種。産地不明。

*Morus reticulata* BAF. 同、二八頁。

アカミズンに同じ。

*Morus algina* BAF. タカネグハ 同、九一頁。

新種。産地不明。

*Morus tomentosa* BAF. ルドウイギア植物誌(Floralindov.) 一一三頁、三七九號。

本種はアカミズンの變種なりと云ふ。

*Morus riparia* BAF. キンズグハ 『北米新植物誌及び植物學』(New flora and Botany of North Am

erica. *Philadelphica*. 1836.) 卷三、四六頁。

新種。北米原産。

*Morus parvifolia* BAF. マンバグハ 同書、四七頁。

新種。北米原産。

*Morus multicaulis* BAF. non PERR. アメリカエタウチグハ 同書、四八頁。

新種。北米原産。

マンニン (SPACH) の『顯花植物の博物學』(Histoire Naturelle des végétaux phanérogames. 14 vols. Paris, 1834-48.) にも多数の桑種を載せたり、即ち。

*Morus patavina* HORT. 同書、卷一、四三頁。

シロミンニ同じ。

*Morus venosa* DELILE. 同 右。

キリンの *Morus alba* var. *venosa* DELILE 同 右。

*Morus latifolia* HORT. non POIR. 同、四五頁。

シロミンニ同じ。

*Morus romana* RODD. ローマグハ 同 右。

葉は大形にして卵状、表面無毛なれども下面脈上に微毛あり。

本種はロヂツヒの『植物目録』(LODDIG, Catalogue.) 第一八三六年版に依れりと云ふ。(シロミヅハの變種。)

ラウドン(LODDON)は英國の著名なる有用植物記説者として知らる。其の著『英國樹木灌木誌』(Arboletum et Fruticetum Britannicae. London, 1838.)は次に列記せる諸桑種を載せたり、但同書に掲げたるもの多くは既記のロヂツヒ著『植物目録』(一八三六年版)に擧たるを聚録せるものなりと云ふ。其の新に發表したるご名稱の整理を行ひたるごを併せ記さば次の如し。

*Morus alba* var. *romana* LOUD. 同書、第三卷、一三四九頁。

本種は既記 *Morus romana* LODD. に同じ。

*Morus alba* var. *tatarica* LOUD. 同、一三五八頁、一三二五圖。

リン子のギノリマヅハに同じ。

*Morus alba* var. *macrophylla* MORETTI. 同、一三四九頁。

クロミヅハに類似せるも葉は薄く、明かに有柄にして幾分平滑あり、果叢は紅色を呈す。

左の五名は孰れも此變種の異名なり。(同書、一三四九頁)

*Morus macrophylla* MORETTI non HORT.

*Morus hispanica* HORT.

*Morus* *Moretiana* LODD.

*Morus* *alba* var. *Moretiana* LODD.

*Morus* *patavina* AUDIB. non HORT.

*Morus heterophylla* LODD. 同書、卷三、一三六頁。

シロミヅハの一品種あるべし。

*Morus lucida* HORT. 同書、卷三、一三五〇頁。

シロミヅハは一品種なるべし。

*Morus rubra* var. *scabra* LODD. 同書、卷三、一三六〇頁。

既ちウイルデノウのザランキンハ即ちキレンタンに同じ。

*Morus alba* var. *canadensis* LODD. 同書、卷三、一三六〇頁。

アカミヅハの一品種あるべし。

*Morus alba* var. *nervosa* LODD. 同書、卷三、一三四九頁。

既ちデリールのステバグンに同じ。『美園家雜誌』(BonJardinier) 一八三六年號には亞變種ナガバグハ

(subvar. *longifolia*) と共に之を掲げたり。

*Morus alba* var. *multica* LODD. 同書、卷三、一三四六頁。一三三三圖。



本種はホアーレのモロンゲンに同じ、即ちパロットの命名を *Morus multicantis* を改訂せるなり。

*Morus chinensis* LOUD. 同書、卷三、一三五〇頁。

*Morus sinensis* HORT. 同 右。

*Morus alba* var. *sinensis* BOSCH. 同 右。

右孰れも其の同物異名なり。

*Morus alba* var. *italica* LOUD. 同書、卷三、一三四九頁。

ホアーレのイタリヤゲンに同じ。

*Morus alba* var. *constantinopolitana* LOUD. 同書、一三五八頁。第三號。

ホアーレのコンスタンチノーブルゲンに同じ。

*Morus alba* var. *pumila* LOUD. 同書、卷三、一三五〇頁。第十二號。

ハルピスのチャボゲンに同じ。

*Morus alba* var. *laciniata* LOUD. 同書、卷三、一三四九頁。

ミルラーのワレムゲンに同じ。

*Morus pennsylvanica* NOIS. 『英國植物園目錄』三七八頁。

リンネのアカミダレに同じ。

次でモントペイテル (STUEDEL) の『植物命名書』(Nomenclatorbotanicus, Stuttgart. ed. II. Phanerogam. 2 tom. 1840-41.) も亦多くの桑種を掲ぐ、其の名稱凡そ左の如し。

*Morus buzaniata* SEEBER 同書、第二卷、一六二頁。

*Morus furcata* HORT. 同 右。

*Morus Guzziola* HORT. 同 右。

*Morus macrophylla* HORT. 同 右。

*Morus Marietti* HORT. 同 右。

*Morus membranacea* HORT. 同 右。

*Morus subalba* HORT. 同 右。

*Morus Venassaini* HORT. 同 右。

以上の諸種は今日孰れもシロミヅハの變種又は同種なりと考へらる。『キユー植物園目錄』(Index kewensis) 第二卷(一八九五年版)に依る。

パヴィア (Pavia) 大學教授 モレツチ (MORETTI) は伊人中最も傑出せる桑樹分類學者にして其の著書『桑屬各種圖說前書』(Prodomo di una monografia della specie del genere *Morus*. Milano, 1842) 最も顯はる。又氏が一八一五年に造成せしモンツチン (*Morus alla var. vulgaris subvar. macrophylla* forma Morettii)

の如き今猶實用せらるゝ所なり。然れども氏の發表せし新種は僅に次の四種に過ぎず、且孰れも今日獨立種たる位置を保つものあきを遺憾とす。

『ロムバルド科學文藝研究所年報』(Giornale del R. Istituto Lombardo di Scienze e Lettere.) 第一卷(一八四一年)所掲)

*Morus scabra* MORETTI

同誌、一八〇頁。

クロミダンの一種。

*Morus tortuosa* MORETTI

同誌、一八一頁。

シロミダンの一種。

*Morus caroliniana* HORT.

同誌、一八一頁。

アカミダンの一種。

*Morus Alaisia* DELISS.

同誌、一八二頁。

ツリツビのクナシタンに同じ。

ジャックモン(JACQUEMONT)の著『印度航海誌録、植物部』(Journal du Voyage dans l'Inde. Part.

Botanique. Paris. 18.)に於て次の桑種を記述せり。

*Morus pabularia* DCNE. 同書、一四九頁、二四三圖。

之ロックスボローのノコギリバグハに同種なり。又ジャンケモンの手記せる

*Morus vicorum* JACQEM.

も之と同種なりと云ふ。

ブリュニス (GRIFFITH) は其の著『亞細亞植物圖譜』(Icones plantarum asiaticarum) に附屬する『亞細亞植物記聞』(Notulae ad plantas Asiaticae. 4 vols. Calcutta, 1847-1851.) 第四卷(双子葉類)一八五二年版三三八頁に、

*Morus acidosa* GRIFF.

を載せたり。本種はフーカー氏(J.D. HOOKER)の『苗領印度植物誌』(Flora of British India. 7 vols. London, 1873.) に依れば多分インドゲンと同種ならんことを云ふ。

ミシユル(MIQUEL)は彼の『日本植物誌前記』(Prolusio Florae Japonicae. Leide. 1864.)にて吾人に親交せる學者あるが其の蘭領印度植物の記文中二三の新桑種を發表せり、左に之を録す。

*Morus alissima* MIQ. **セイタカゲハ** 『蘭領印度植物誌』(Flora Indiae Batavae. Amsterdam 3 Bde. 1855-1859.) 補遺、一、四一五頁。

托葉は不平等にして卵狀披針形、新葉は膜質、兩面殊に下面、就中葉脈に軟毛多し、基脚部多くは平滑なり。心形或は斜狀卵圓又長橢圓、或は卵形をなし、漸尖頭を有す、狭く三脈あるか或は五六

肋あり、又三裂す。スマトラ原産。

*Morus leucophylla* MIQ. シロバグハ 同右、四一五頁。

葉は長さ葉柄ありて卵狀長橢圓形、基脚殆ど心形にして頂端は漸尖す、下面に軟かき白色絨毛を密布するが故にシロバグハの名稱あるあり。スマトラ原産。

*Morus macoura* MIQ. マナカグハ 『エングーン氏植物録』(Plantae Junghuniense Leiden. 1851-55.)  
四二頁、第一號。

若き葉は膜質にして下面白色絨毛を覆ふ。葉は圓狀卵形にして基脚截形又は少しく心形をなし、高く三脈ありて兩面五六の小肋を具ふ。雌花叢は葉腋に單生し花梗あり花は稍密にして花被は其の縁邊に毛あり、ジャバ及びスマトラ原産。

以上三種共今日に至るも他に類縁なき獨立種たるが如し、但花部の記載簡に過るが故に猶其の桑屬の植物なるかと歎ふ者あり、記して後研を俟つ。

ハリソン(SERINGE)の圖説は總ての桑樹に關する書中の權輿なり、即ち題して『桑樹記説、培養、仕立法』(Description, culture et Taille des Muriers, leurs espèces et leurs variétés. Paris, 1855)と曰ふ。本書の整理せる桑種名稱及び新に發表せし新變種の名稱及畧説左の如し。

*Morus tenuifolia* SER. シナンナグハ 同書、一九八頁、第二號。

新變種。葉は小形にして、若干分裂を生ぜり。枝の柔軟あるが故にふの名あり。

*Morus rosea* SER. クニクグハ 同書、二〇六頁、第五號、第一三圖。

新變種。葉は廣心形にして中庸の大いさあり。葉柄紅色なるが故にふの名あり。

(ビュローに依れば本種は一部ローマゲン (*Morusromana*) を含めりと云ふ。)

*Morus Colombassa* SER. ロンバツサグハ 同書、二〇六頁、第六號、第一四圖。

新變種。前者ベニジクグハに酷似し葉柄紅色なれども葉更に薄く、隔りて着生し、且小形纖弱あるの差あり。雌樹は殊に然り。

*Morus Colombassetta* SER. ロンバセツグハ 同書、二〇七頁、第七號、第一五圖。

新變種。葉は小形にして膜質、基脚心形、鈍頭、又半鈍頭。葉柄甚だ柔軟なり。雌極は殊に小形にして帶黄色あり。

*Morus alba* var. *Moretti* SER. 同書、二〇八頁、第四號。

モンチゲンにして即ちオホバグハ (*Morus macrophylla*) の一品なり。(ビュローに依る。)

*Morus alba* var. *Ihou* SER. ローグハ 同書、二〇八頁、第八號。

一部同右。一部ヒロバグハに同じ。(同上)オホバグハはハロッテのエタウチゲンと同一にして東洋の品種なる事明かなり、例へばマイヨ・ランブル (*MAILOT & LAMBERT*) の(養蠶及栽桑

論』(Traite sur l'aver a Soie du Murier et le Murier. Montpellier. 1906.) によるも(四三三頁)ロー(Lou)又はロー・サング(Lousang)は即ち魯桑なる事明かにして其の一八三四年蘭人によりて支那より直接移入したる事、又ナガサギグハ(Nagasaki)もエゲウチグハの二亞變種ありと云ふ事等を以ても之れを證する事容易あり。況やミクエルの如き現に『日本植物誌前記』中(一三〇頁)明かにエグウグハを邦産に算へ記せるに於てをや。

*Morus alba* var. *pyramybaris* SER. ムンツトクハ 同書、二二二頁、第一號。

新變種。中庸の木本にして樹形『ピラミッド』形をなす。枝は曲折皺起して短かし。葉は卵形、基脚突入し、葉縁鋭鋸齒あり。銳頭あり。

*Morus alba* var. *nanua* SER. 同書、二二二頁、第一二號。

ハルボスのチャボグハに同じ。

*Morus alba* var. *Fibrosa* SER. 同書、二二二頁、第一二號、第一六圖。

マリールのスヂングハに同じ。

*Morus alba* var. *lobata* SER. 同書、二二三頁、第二號。

ワレングハに同じ。

*Morus stylosa* var. *latidentata* SER. 同書、二二七頁、第二號。

リンネのイネダグンに同じ。

*Morus stylosa* var. *ovalifolia* SER. 同書、二二七頁、第三圖。

即ち日本産のエナシグンなり、ビュローは本種の一部をアラビアグン (*Morus arabica*) をなせり。

*Morus japonica* AUDIR. non sieb. 同書、二二六頁。

シロシグンの一種なり。『キユー植物園目録』に依る。

*Morus stylosa* var. *cordifolia* SER. 同書、二二七頁。

シロシグンの一種にして、ロックスボローのママラサグンに同じ。

ヒンボ (KOCH) 著『樹木學』(*Dendrologie* 2 Bde. 1869-73.) には次の種類を擧げたり。

*Morus Tokwa* HORT. 同書、第二卷、四四七頁。

本種はシーボルトの手記に成るトウクワと同一なりや否や明かならず、ミケエルに依ればシーボルトのトウクワは名「マルクワ」と稱し即ハロツテのエダウチグンに同一なりと云ふ。

ビュロー (BUREAU) は植物記載學的に桑樹を分類記説せる最も有要ある記文をトカンドール (A.P. et A. DECANI-OLLE) 編『植物自然分系前書』(*Prodromus systematis naturalis regni vegetabilis*. 17 vols.

*Paris*. 1824-1873.) 第十七卷(一八七三年)に發表せり。其の名稱の整理は先人の諸説を殆ど網羅せざるはあく、又新に若干の種及び變種を發表せり。茲に其の事業の概要を擧ぐれば左の如し。



*Morus nigra* var. *laciniata* BUR. 同書、二三八頁、

ミルラーのマンバンツンに同じ。

*Morus alba* var. *vulgaris* BUR. 同書、二三八頁。

次の九亞變種を總轄して之を設く。(以下括弧中は原命名者名)

Subvar. *tenuifolia* (SER.) BUR. 同書、二三九頁。

セリンジの命名を改訂せるなり。

Subvar. *rosea* (SER.) BUR. 同 右。

同右。

Subvar. *Colombassa* (SER.) BUR. 同 右。

同右。

subvar. *Colombassetta* (SER.) BUR. 同 右。

同右。(但一部分は之を割きて次種に收めたり。)

Subvar. *Repararia* BUR. 同 右。

新變種。枝條は多くして且長く、若きものは下垂せり。葉は分裂せず、廣くして壓扁し、聚果は數多く白色あり。

Subvar. romana (LODD.) BUR. 同 右。

ロチンビのローマゲハを改訂せるあり。

Subvar. macrophylla (MORETTI) BUR. 同 右。

モレツチのオホバグハなり。其他セリンジの變種ローゲハの一部を割きて之れとなし、オーヂベール (AUDIBERT) のモンツチゲン (Morus Morettii AUDIB.) 及ヒンヂンゲン (Morus patavina AUDIB.) を之と同種と校定し、本變種の性質を確定せり。

Subvar. Tokwa (SEB.) BUR. 同書、二四〇頁。

本變種はシンボルド手記のタウクン (Morus Tokwa) を改定せるなり、其の略記文に曰く。

莖は灰色。葉は大きく、廣卵形又は卵狀三角形にして基脚稍心形をなす、葉縁は大きく且廣く齒牙あり、尖頭廣く尖る、上面無毛、下面は點狀凸出をなして粗あるのみならず葉脈に柔毛あり、葉脈は色薄く、廣く、各脈の三分の一は稍透明なり。雌の花序は長柄あり、花梗瘡長、叢果は大きく橢圓狀圓壘形に近し。日本原産。

Subvar tatarica (LINN.) BUR. 同 右。

リンネのタ・リアゲハに同じ。

Morus alba var. Bungeana BUR. 同書、二四一頁。

新變種。主徴左の如し。

莖曲折して短かく、葉は小、略々圓く、基脚廣く、ほぼ深く突入し、齒牙狀鋸齒あり、有毛。雌の花序は小さく半球形にして帶赤色、花梗長く、花柱無柄、支那原産。

*Morus alba* var. *mongolica* BUR. 同右。

新變種。

*Morus alba* var. *serrata* (ROXB.) BUR. 同書、二四二頁。

ロツシヌポローのノロギリンヅンなり。

*Morus alba* var. *nigriformis* BUR. 同右。

新變種。

*Morus alba* var. *indica* (LINN.) BUR. 同書、二四三頁。

リンネのインドグハなり。之れを「シロミゲン」と合併したるにつきフーカーの如きは大に異論あり、猶各學者の説一定せず、大なる欺問の一に屬す。

*Morus alba* var. *cuspidata* (WALL.) BUR. 同右。

ワリツヒの命名を改訂せるなり。

*Morus alba* var. *stylosa* (SER.) BUR. 同右。

セリンジの命名を改訂せるなり。

*Morus alba* var. *arabica* BUR. 同書、二四四頁。

セリンジの命名せる *Morus stylosa* var. *ovalifolia* SER. の一部を分離して之を作りしあり。

*Morus alba* var. *atropurpurea* (ROXB.) BUR. 同 右。

ロクタンポローのマトラサキグンを改訂せるあり。

*Morus alba* var. *latifolia* (POIR.) BUR. 同 右。

ポアールのヒロンゲンを改訂し、之にペロツテのエダウチグンを合併し、更にセリンジのローグハの一部を加へたるものなり。

*Morus alba* var. *laevigata* (WALL.) BUR. 同書、二四五頁。

フリツビの命名を改めたるなり。

Subvar. *viridis* BUR. 同 右。

同じくフリツビに依れるあり。葉圓頭をなすを以て原種と異なるあり。印度バトナ原産。

*Morus rubra* var. *tomentosa* (RAF.) BUR. 同書、二四六頁。

ラントネメントの *Morus tomentosa* を改訂せるなり。

*Morus rudra* var. *incisa* BUR. 同 右。

ウイデノウのザラツキグハを改訂せるなり。

*Morus insignis* BOR. チリメンクハ 同書、二四七頁。

新種。

葉は短柄あり、卵形又卵狀披針形にして基脚は傾心形をなし頂端は尖る。網狀の小葉脈は極めて特徴あり、即ち網脈間の小部は葉面に突出し、下面著しく凹入し之を上面より見る時は一見葉面に多數の小瘤を密布するが如し。花序は始め直立し後下垂し、甚だ長く、圓壘形にして甚だ短かき花梗あり。ノバヅラナタ原産。

本種は多分メンサムが『ハルトウエツヒ氏採集植物錄』第二部、二五三頁、二三九〇號に載せたる

*Morus certifolia* var. *affinis* BENTH.

と同一なるべしと云ふ。

ヘムスレー (HEMSELEY) は有名なる東洋植物の研究者あるが、其のフォルベス (FORBES) との共著『支那等の既知全植物名列擧并に分布、異名』(An enumeration of all the plants known from China Proper, Corea, the Luchu Archipelago, and the Island of Hongkong, together with their description and synonymy. in Journ. of Linn. Soc. Botany, Vol. 26, No. 173. (1889) London.) なる論文中次の一新桑種を發表せり。

*Morus cathayana* HEMS. チヤタイグハ 同誌、四五六頁。

葉は心形にして葉柄の約七倍あり、尖端急に漸尖し、葉柄には微毛あり。雄花の花梗は其の長さの四分の三「インチ」あり。雌花叢は圓壻形にして約九—一五「ライン」長の短かき花梗あり。全形ワリツヒのケナシグハに似たれども花叢及び花梗の短かきを以て分つ可し。支那原産。

ドイツベル (DIPPEL) は其著『潤葉樹學提要』(既述)に次の桑種を載せたり。

*Morus Colombassa* HORT. 同書、第二卷(一八九二年)一〇及五八二頁。

*Morus fastigiata* HORT. 同 右。

*Morus patabia* AUDIB. 同 右。

又同書にシロミグハの次の變種を掲ぐ。

*Morus alba* var. *pendula* DPP. 同 右。

枝は細く、下垂するが故にその名あり。葉脚の灣入部は可あり廣し。(シユナイダー氏『潤葉樹學』(SCHNEIDER, *Laubholzkunde*.) 第一卷(一九〇六年)二三八頁に據る。)

松村任三氏は植物學雜誌、第十六卷(一九〇二年)第一八〇號に『日本産二三の稀有ある植物』(Some rare plants in Japan)なる文中、和名「ノグハ」の名稱の下に

*Morus nigra* MATSUM. non LINN.

を記述せり。其の記文(羅甸文)に云く。(一八頁。)

葉は分裂せず、稀に分裂し、卵圓形を呈し、漸尖頭を具へ、齒牙あり、深く心狀をかし平等なり。表面粗糙裏面柔毛あり。若き枝と葉柄は短剛毛あり。

本種は其の後詳細ある産地を附して牧野富太郎氏が同誌、第十九卷(一九〇五年)二二七號『日本植物考察』(Observation on the Flora of Japan)中に再説し且學名を次の如く改訂したり。

*Morus rubra* var. *japonica* MAK. 同誌、一三五頁。

其の略記に曰く。

花柱の腕部は瘡長にして鑿形針狀をなし、頂方に向ひ漸尖す、子房よりも長し。軟く全部に柔毛を冠る。他は基本種アカミグハに同じ。

然るに其の後同氏は更に本種の名稱を改め、之をアカミグハより獨立せしめ、

*Morus tiliaefolia* MAK. 同誌、卷二二(一九〇九年)八八頁。

なる新名を與へたり。即花柱腕部の形狀を以て種を分つの標徴となせるなり。

ラスビー(RUSBY)は『トリー植物俱樂部報告』(Bull. of the Torry Bot. Club. 第二十八卷(一九一一年)に於て『食用果實の二新種』(Two new Species of edible Fruits.)なる文中次の一新桑種を發表せり(一四五頁)。

*Morus Mollis* RUS. ヤハラカダハ メキシコ 原産。

ハツエイン(LEVEILLE)はフェッデの『植物界新種目録』(雜誌)(Repertorium novarum specierum regni Vegetabilis)第十卷(一九一一年)一四六頁に次の新桑種を發表せり。

Morus Cavaleriei LEV. カワレリーグハ 支那原産。

以上列擧せる如く今日まで發表せられたる桑樹の名稱其の數實に百に達し、其の同物異名、異物同名の紛叫せる事凡そ上に述べたる所を以て其の事情を知悉するに難からず、且諸學者が其の名稱整理に關心せる事の如何に大あるかをも併せ示す事を得たり、以て桑樹分類事業の如何に困難なるかを窺知すべし。今日若し我國に於て眞實眞面目に桑樹分類事業の完成を期するものあらば先づ以上の如き研究史を具に考究し第一に總ての文献を聚集し、原記文を比較考察熟慮し、次に既に取扱はれたる全植物の輸入を計り、之を栽植して其の眞情を具さに比較するに非ずんば能はざる可し。邦人第一に文献の重すべく、且其の聚集に日之足らず腐心すべき事を知らず、徒に *up-to-date* の書に甘じ、以て大業を成さんと欲す、笑ふ可き哉、又如何に本邦桑種數百ありとも且又完全に之等を聚集比較すとも之を以て右に述べたる世界的桑樹分類誌に寄與を成さんとするは一の盲擧にして何の價値なきものなり須く世界を周歴してあらゆる桑種を集め、然る後之を比較するに非ずんば能はざる可し、然るに今日まで桑樹分類事業の必要を論ずる者甚だ多きも而も何人も其の事業の一端に就きてすら發言せるものあるき聞かず。如何に本邦學家の不眞面目なるかを知るに足る、歎す可く恐る可し、右の聚録又徒に繁にして其の何の故に本誌の大



部を覆ひたるかを疑ふもの多かる可し。然れども之實に此の事業の入門第一期に行ふ可き貴重なる事項にして之なくして何すれぞ實研の歩を進むる事を得んや、即ち勞を厭はず茲に之を公にせる所以也。猶本邦に於ける桑樹の研究史に至りては更に稿を改めて誌さん。終りに既に發表せられたる桑の獨立種名稱を列記せば左の如し。

*Morus alba* LINN.

シロミグハ

*Morus alpina* RAF.

タカネグハ

*Morus alissima* MIQ.

セイタカグハ

*Morus cathayana* HEMSLE.

チャタイグハ

*Morus Cavaleriei* LEV.

カブレリーグハ

*Morus celtifolia* H. B. et K.

エノキバグハ

*Morus indica* LINN.

インドグハ

*Morus insignis* BUR.

チリメングハ

*Morus insularis* SPRENG.

シマノグハ

*Morus japonica* SIEB.

ニッポングハ

*Morus laevigata* WALL.

ケナシグハ

*Morus leucophylla* MIQ.

*Morus macrooura* MIQ.

*Morus mollis* RUSBY

*Morus multicaulis* RAF.

*Morus nigra* LINN.

*Morus parvifolia* RAF.

*Morus pyramydalis* HORT.

*Morus riparia* RAF.

*Morus rubra* LINN.

*Morus serrata* ROXB.

*Morus tiliaefolia* MAK.

シロバングン

ラナガングン

ヤハラカングン

アメリカナゲウチングン

クロミングン

マメングン

ドラミツアングン

キシングン

アカミングン

ノロギリバングン

ノグン(長門) ヤマングン(備中) (完)